# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度 【国語】科　授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | ○ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れることで、自分の考えをもったり、まとめたりすることができるようになってきた。また、自分の考えと友達の考えを比べることができるようになってきた。<br>○授業の振り返りでは、視点を明確にしたことで、児童が自らの成長を実感できるようになった。<br>○「書く」活動を多く取り入れたことで、平仮名・片仮名の定着が図れた。<br>●振り返りが感想になってしまう児童がいた。<br>●促音や長音、「は・を・へ」の習得の理解に差がある。<br>●指定された文を書いたり、板書を写すことはできるが、自分の考えを文字に起こすことが苦手な児童がいる。 | ○平仮名・片仮名の習得に意欲的で、新しい文字を習うことを楽しみにしている児童が多い。<br>○音読はスムーズにできる児童が多いが、一部たどたどしい児童もいる。<br>○物語の音読劇は、大きな声ではっきりと表現できるようになってきた。<br>○様々な本に興味をもち、すすんで読書をする児童が多い。<br>●集中力や活動の丁寧さに差がある。<br>●促音や長音、「は・を・へ」の習得、句読点の使い方についての理解にも差がある。<br>●平仮名を正確に書くことができない児童が一定数いる。 | ○文字習得への意欲が引き続きもてるような帯活動を行い、児童が落ち着いて習得できるように工夫していく。<br>○音読は宿題で取り組むだけでなく、音読発表会や暗唱タイムなど宿題で取り組んだ成果を授業の中で発揮できる時間を設けていく。<br>◎ノート指導にも取り組み、授業の振り返りを継続的に行う。その際には時間を確保し、振り返りの視点を明確にしたり、例文を示したりしながら、児童がしっかりと自分のできたことを実感できるように取り組む。<br>○ペア学習やグループ学習を取り入れ、自分の意見を伝える力、相手の意見を聞く力を育てていく。<br>○自主学習や朝学習を活用して、MIMや日記など書く時間を増やしていく。書く時間を増やすことで、促音や長音「は・を・へ」や句読点の習得を目指す。<br>○読書活動において、絵本や物語に親しみ、文字への興味や関心を高め、声に出して読む楽しさを体験させる。<br>○ＡＩドリルを活用し、一人ひとりの学習状況に合った問題に取り組ませることで、文字や言葉などの基礎学力を定着させる。<br>○挿絵や文章中の言葉を手掛かりに似た体験を思い出し、話してから短い文に書く活動を通して、感じたことを自分の言葉で表す力を伸ばす。 |
| 第2学年 | ○物語文の音読を繰り返し行ったり聞き合ったりすることで、音読を工夫して行う児童や楽しみながら読む児童が増えた。<br>●漢字や語句の使い方、助詞などの使い方が定着していない児童が一定数いる。<br>●思ったことを述べたり書いたりすることができても、相手を意識して大切なことを強調したり分かりやすい言葉に言い換えたりすることができる児童が少ない。 | ○教材文を繰り返し読むことで、読みを広げながら音読を楽しむことができた。<br>○日常的に読書に親しみ、お気に入りの本を友達に紹介したり、友達が紹介した本を読んだりする姿が見られた。<br>○ICT機器を活用しながら繰り返し漢字練習に取り組む児童が増えてきた。<br>●平仮名、片仮名を自在に書けない児童が一定数いる。また、書くことに苦手意識をもっている児童もいる。さらに、句読点や「は・を・へ」などを正しく使って文章を書くことができない児童が一定数いる。 | ○毎時間帯活動として、漢字や音読の学習に繰り返し取り組む。その際、めあてを明確に示した上で丁寧に指導し、読み書きの基礎を身に付ける時間とする。<br>○自分が書いた文章を多くの人に見てもらい、相互評価を設定するなど、児童が「書きたい」「伝えたい」と思う言語活動を計画する。<br>◎はじめ、中、終わりで色分けした線を引いたり、色分けした短冊を使ったりすることで、視覚的に文章の三部構成を理解させる。<br>◎振り返りの視点を明確に示し、児童が自身の成長を振り返りやすくする。<br>○読書活動において、絵本や物語に親しみ、文字への興味や関心を高め、声に出して読む楽しさを体験させる。<br>○ＡＩドリルを活用し、一人ひとりの学習状況に合った問題に取り組ませることで、言語事項等の基礎学力を定着させる。<br>○「自分にも似たことがあったか」を話し合い、文章中の言葉と体験をつないで感想を書く活動を通して、内容と体験を結び付けて感想をまとめる力を伸ばす。 |
| 第3学年 | ○物語文や説明文を繰り返し音読することで、淀みなく音読する楽しさを体感し、内容理解を深めることができた。<br>○作者の思いを文中の言葉に着目して自分なりに書くことができた。<br>●漢字や原稿用紙の使い方など、基礎基本の定着ができていない児童が一定数いる。<br>●本などから読み取った内容を、書くべき内容に合わせて書くことのできない児童が多くいる。 | ○教材を何度も読むことで、物語文も説明文も内容を読み取ることができる児童が多い。<br>○課題に対して、自身の考えをもつことができる。また、友達の考えを聞いて自身の考えと比較することができる。<br>●集中して話を聞くことができない児童が一定数いる。<br>●自身の考えがあっても、それを相手に積極的に伝えたり、相手が理解できるように伝えたりすることには課題がある。<br>●新出漢字の読みは繰り返し練習すれば定着する一方で、書き取りに関しては、定着度に差が生じている。また、文章を書く際に積極的に漢字を活用するレベルには至っていない児童が多い。<br>●初見の文章をスムーズに読める児童は少ない。たどたどしく読んだり、前学年までの漢字が未定着のため読めなかったりすることがある。 | ○音読や漢字の学習は毎時間行い、定着を図る。<br>○話の聞き方の指導を徹底していく。<br>○発言する時は、言いたいことを１つに絞る。そこに相手が理解できるような表現を加えられるように指導する。<br>○話し合い活動をする際に、事前にねらいや目的を明確に示す。<br>○「聴写」の活動を取り入れて聞く力・書く力を高めたり、友達の考えを自身の言葉で言い換えたりさせることで、聞く力・話す力を高めたりできるように指導する。<br>◎文章を書く際、主語と述語の関係を意識させたり、「はじめ・中・終わり」の構成に沿って書かせたりすることを重点的に指導する。<br>○日頃の読書活動を通して、登場人物の気持ちを想像したり、自分の考えをもったりすることを経験させる。<br>○ＡＩドリルを活用し、一人ひとりの学習状況に合った問題に取り組ませることで、漢字や言葉などの基礎学習を定着させる。<br>○心に残った言葉と自分の経験、その理由を構成メモに整理して書く活動を通して、文章を根拠に自分の考えをまとめる力を伸ばす。 |
| 第4学年 | ○ドリルパークや漢字小テストへの継続的な実施により、漢字や語句などの漢字や語句などの基礎的な知識の定着が見られた。<br>○ノート交流や話合い活動を取り入れたことで、友達の考えを参考にしながら、自分の考えを広げたり深めたりする姿が見られた。<br>●書く活動では、目的や相手を意識して文章を構成したり、理由や具体例を挙げて表現したりする力を育成していく必要がある。 | ○段落分けや場面分けをして文章の構成を捉えることができる児童が多い。<br>○説明文の中から筆者の考えを読み取って分析しようとする児童が多い。<br>○登場人物の行動や台詞などの文章を根拠にして、心情の変化を読み取ろうと考えることができる児童が多い。<br>●自分の考えを文章に詳しく書いたり、原稿用紙の使い方が定着していなかったりする児童が多い。<br>●話し合い活動では、意見を沢山言う児童がいる一方で、何も言わない児童も一定数いる。<br>●漢字や語句の意味などの知識の定着に差がある。 | ◎作文用紙の使い方や文章の構成を意識して書く機会を増やし、文章を適切に書くことができる力を重点的に伸ばす。<br>○課題に対する自分の意見を書く時間を十分に確保する。<br>○話し合い活動を行う際には、話型や話し合いの観点を示し、何について話し合えばよいのかが分かりやすくし、全員が活発に意見交流を行えるようにする。<br>○友達と意見を交換したり作品を見合ったりする活動を多く取り入れて、より良い意見や作品になるように伝え合う機会を増やす。<br>○帯学習や漢字の小テストを計画的に取り入れ、主体的に漢字の学習に取り組む児童を増やす。<br>○一人ひとりの学習状況に合った練習問題に取り組ませることで、言語事項等の基礎学習を定着させる。<br>○「文章から分かったこと―自分の経験―考えたこと」の構成で書く活動を通して、理由や事例を明確にして考えを伝える力を伸ばす。 |
| 第5学年 | ○目的意識や相手意識を明確にもたせ、自信をもって表現できるようにスモールステップで指導したことにより、主体的に粘り強く課題に取り組めた。<br>◎書いた文章を友達と読み合う活動を設定し、自分や友達の表現方法や言葉選びの良さに気付き、自分の表現に生かせるようにしたことで、自信をもったり、自分の課題を見付けて改善したりすることができた。<br>●ＡＩドリルや漢字テストを活用して新出漢字や言葉の学習を積み重ねるとともに、日常的に活用するように継続して指導することで、語彙の充実と言語能力の定着を図ったが、以前個人が大きい。<br>●読書の時間を確保することが難しかった。 | ○叙述を基にして、登場人物の様子や心情を考えようとすることができる。<br>○文章の構成について考え、筆者の主張や例などがどこに表されているかを判断し、文章の要旨をつかむ力が高まってきた。<br>●文章構成の理解は見られるが、実際に書く場面では表現に苦手意識がある。語彙が限られ、意図に応じた言葉選びや文の工夫が不十分で表現が単調になることが課題である。<br>●漢字や言葉などの言語能力の個人差が大きいとともに、学習したことを日常的に活用することが難しい児童がいる。 | ○目的意識や相手意識を明確にもたせ、自信をもって表現できるようにスモールステップで指導する。<br>○書いた文章を友達と読み合う活動を設定し、自分や友達の表現方法や言葉選びの良さに気付き、自分の表現に生かせるようにする。<br>○漢字の定着に個人差が見られるため、小テスト前に自学自習プリントを充実させる。また、テスト日を学期ごとに示し、計画的な学習を促す。自主的に対策プリントを作成させ、互いに高め合う学習環境を整える。<br>◎語彙を増やす活動や例文を通して表現の幅を広げる指導を行う。また、短い文から段階的に書く活動を取り入れ、互いに読み合う場を設定することで、表現力の向上を図る。<br>○文章中の言葉を引用し、自分の経験とそこから考えたことを区別して書く活動を通して、根拠を明確にして考えをまとめる力を伸ばす。 |
| 第6学年 | ○帯学習として、漢字の5問テストやミニ作文を、授業冒頭に取り組んだ。漢字テストの平均点の向上や、文章記述能力の向上が見られた。<br>○説明文では、主張と事例に着目し、筆者の考えを読み取ることができた。<br>○物語文では、登場人物の心情変化を読み取ることができた。<br>●書くことの基礎知識（句読点や「」、はへをなど）が正しくできない児童が一定数いた。<br>●話し合い活動が伝え合いになることが多く、考えを深めることができなかった。 | ○漢字の学習では、各クラス平均点が８８点程で、定着率は高かった。<br>○説明文では、主張・具体例・主張の両活型の文章構造を理解することができた。<br>○物語分では中心人物の視点に立ち、山場と心情の変化を読み取ることができた。<br>●学力調査の結果より、文章の構造を利用して自分の考えを伝える力が弱い。また、資料を活用して分かりやすく工夫をして説明する力が弱い。<br>●句読点の打ち方や、鍵かっこの付け方、段落の作り方など、書くことについて既習事項を十分に理解していない児童が多い。<br>●基本的な言語事項の習得に大きな差がある。 | ○作文等で既習漢字を活用する機会を設け、文脈に応じて漢字を正しく使う力を伸ばす。<br>○段落の役割や主張と具体例の関係を図式化し、文章の構成を的確に捉える力を伸ばす。<br>○複数の叙述を関連付け、考えの根拠を明確にする活動を通して、物語を深く読む力を伸ばす。<br>○構成メモを活用し、資料と考えを関連付けて書くことで、考えを分かりやすく伝える力を伸ばす。<br>○推敲の観点を示して文章を見直す活動を重ね、句読点や段落を適切に用いて書く力を伸ばす。<br>○個々の課題に応じた反復練習や補充指導を行い、語彙や文法を適切に活用する力を伸ばす。<br>◎文章中の言葉を根拠に、自分の経験を想起して結び付ける活動が不足している。構成メモや交流を活用し、「文章から分かったこと―自分の経験―考えたこと」の順に整理して、自分の考えをまとめて書く力を伸ばす。 |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度 【算数】科　授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | ◎導入で具体物を活用し、児童の身近な話題を出すことで、児童が問題のイメージを掴みやすく、興味や関心をもって活動に臨むことができた。<br>○少人数クラスを設置し個別指導を強化した結果、学力差が生まれず、学年全体が一定の学力を身に付けることができた。<br>●文章問題から立式することができない児童、計算の仕方を説明することができない児童がいる。 | ○具体物を取り入れたことで、算数の学習にすすんで取り組み、たし算やひき算を正確に計算できる児童が多い。<br>○帯活動で学習用タブレット端末を使った計算練習や計算プリントに継続的に取り組ませたことで、計算力の向上が見られる。<br>○振り返りを毎時間することで、学習したことを言葉で説明する力が付いてきた。<br>●簡単な計算でも具体物を使う児童がいる。<br>●文章問題など、問題を正しく読めない児童が多い。<br>●一斉指導だと授業に集中できず、個別指導ではないと学習内容を理解することが難しい児童がいた。 | ○引き続き帯活動で学習用タブレット端末を用いたAIドリルなどを繰り返し、具体物を使わなくても答えが出せるように繰り返し学習していく。<br>◎具体物を使ったり、ICT機器を使用することで文章問題の意味をイメージしやすくし、図や式、言葉を使って計算の仕方を説明ができるようにする。<br>○交流活動に重点を置き、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞くことで理解を深めたり自分の考えを広げたりできるようにする。<br>○引き続き、少人数算数指導体制を活用し、個別指導が必要な児童に適切な支援をすることで、一定の学力を保証できるようにする。 |
| 第2学年 | ○毎時間、基礎計算の演習に取り組ませたことで、取組意欲が向上した児童が多くいた。<br>○ペアワークなどで他の人のノートを見たり、考えたことを話し合ったりする時間をつくることで、多様な考えに触れ、学習課題について自分の考えをもち、異なる考え方に興味をもつ児童が増えた。<br>○学習したことが日常生活でどのように関係しているか説明したり、日常生活に関連した学習課題にしたりすることで、長さや時刻・時間についての感覚が身に付いてきた。<br>●繰り上がり、繰り下がり、九九、基礎計算の力が身に付いてはきたが、時間が経つとできなくなってしまう児童がいるので、引き続き復習が必要である。 | ○帯学習のたし算、ひき算などの基礎的な計算演習に熱心に取り組み、今よりも向上しようとする姿勢が多くの児童で見られる。<br>○図や式、言葉を使って計算の仕方を説明することができるようになってきた。自分の考えがもてない児童は、友達の考えを使って考えることができた。<br>●たし算、ひき算の基礎的な計算ができなかったり、時間がかかったりする児童が一定数いる。<br>●文章問題の意図を読み間違えたり、苦手意識が先行して取り組もうとしない児童が一定数いる。<br>●時計やものさしを正確に読むことができない児童が多数いた。 | ○毎時間、授業の始めに十ます計算やAIドリルなどを活用しながら基礎的計算の演習に取り組む。<br>○基礎計算だけでなく、時計やものさしなど、児童の実態に応じて問題を選び、授業の初めに取り組むようにする。<br>◎児童同士の交流の場を確保し、自分の考えを形成し広げたり深めたりできるようにする。 |
| 第3学年 | ○毎時間、授業の始めに基本的な計算問題を練習する時間を取ったことで、計算技能の定着は図れてきた。<br>◎児童間での交流時間を増やしたことで、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりできるようになってきた。<br>●計算技能の定着に個人差が多い。<br>●個別に問題文の読み取りの指導も行ったが、問題文の把握が不十分で取り組めない児童もまだ多かった。 | ○自分の考えをノートに表すことができる（式、図、説明など）児童がふえてきた。<br>●簡単な四則計算ができていない児童がいる。<br>●時刻や時間、文章問題、繰り上がり、繰り下がりのある筆算に苦手意識をもち、自ら取り組めないなど、課題により個人差が多い。<br>●自分の考えを持ち、式や図などで表すことはできるが、その考えを相手に分かりやすくで説明できない児童がいる。 | ○毎時間、授業の始めにAIドリルに取り組む時間を確保するだけでなく、習熟度別のコースの実態に合わせて課題を設定して取り組ませる。<br>○学期末に時刻や時間についての復習をする時間を設け、コース別に問題に取り組ませる。<br>◎児童間での交流時間を設けるようにする。その中で様々な考え方に触れる中で自分の考えをもったり、自分の考えを分かりやすく伝えたりするため、説明する視点などを指導者がはっきりさせてから話し合わせるようにする。また、考えを言葉や図・式にまとめられない児童には、考えの表し方やまとめ方の見本を示すなど個別に対応しながら、話し合いに参加できるように支援していく。 |
| 第4学年 | ○毎時間、授業の始めにAIドリルややや九九などの基本的な計算問題に取り組む時間を確保し、技能の習熟を図ってきたことで、技能は高まってきた。<br>○既習事項の確認などにより、課題回kつのポイントが明らかになり、自らの考えをもてる児童が増えた。<br>◎互いの考えを見合ったり、話し合ったりする時間を設けたことで、自分の考えを表したり、考えを深めたりする児童が増えてきた。<br>●計算技能の定着に個人差がある。十分に定着していない児童への個別の対応が課題となった。 | ○AIドリルなどの計算練習は積極的に取り組む児童が多い。<br>●簡単な四則計算ができていない児童が見られる。<br>●友達の考えを聞き取ることが苦手な児童も多く、話し合いが深まらない様子が見られる。<br>●問題文を理解して解くことが苦手な児童が多く、求めたい値を間違えたり、考えを表していない式を立てたりすることがある。<br>●計算は正確でも、自分の考えを相手に分かりやすく説明できない児童も多い。 | ○毎時間、授業の始めにAIドリルなどを活用し基本的な計算問題に取り組む時間を確保し、技能の習得を図るとともに、ゆっくりコースなどは、習熟度別のコースの実態に合わせて課題を変更して取り組ませる。<br>○めあてを提示し、やるべき課題を明らかにするとともに、意欲が持続しない児童に具体的に何をするとよいか既習事項の使い方などを個別に助言していく。<br>◎見合い・話し合いの中で、分かったことや他の考えを取り入れたいことを発表させ、全体で共有する。特に良かった点を全体で検討することで、よい考えを価値付け、整理させ、自分の考えを分かりやすくまとめ、伝えるポイントを学習していけるようにする。 |
| 第5学年 | ○授業の始めにAIドリルを活用したことで、基礎学力が定着してきた。<br>○練習問題に取り組ませる際は、児童の習熟度に合った練習問題に取り組ませ、机間指導において、躓きのある児童に対し、既習事項の使い方などを助言し、問題を解いたことで、粘り強く課題に取り組む児童が増えた。<br>◎互いの考えを見合ったり、話し合ったりする時間をできるだけ設けたことで、分かったことや他の考えを取り入れていくことが増えた。そのことで、自分の考えを表せるようになってきた。<br>●問題文の読み取り方について、児童と繰り返し確認しながら授業を進めたが、理解に個人差が多く、数量関係が十分に読み取れず、間違う児童も少なくなかった。 | ○自分の意見を説明したり、発表したりすることが増えてきた。<br>○児童間で考えを共有したり、課題に粘り強く取り組む児童も増えてきた。<br>●基礎・基本の内容理解に差があり、習熟度に応じた指導が必要な児童も少なくない。<br>●既習事項を用いて、活用問題に取り組むとき、粘り強く答えを見付け出そうとせず、すぐに友達の考えを参考にしようとする児童が多い。<br>●学習に対し、意欲的に向き合えない児童が一定数いる。 | ○毎時間、授業の始めにAIドリルなどを活用し基本的な計算問題に取り組む時間を確保し、技能の習得を図るとともに、ゆっくりコースなどは、九九の練習プリントなどコースの実態に合わせて課題を変更して取り組ませる。<br>○練習問題に取り組ませる際は、児童の習熟度に合った練習問題に取り組ませる。また、机間指導において、躓きのある児童に対し、既習事項の使い方などを助言し、問題を解いていく過程を数多く経験させていく。<br>◎見合い・話し合いの中で、分かったことや他の考えを取り入れたいことを発表させ、全体で共有する。特に良かった点を全体で検討することで、よい考えを価値付け、整理させ、自分の考えを分かりやすくまとめ、伝えるポイントを学習していけるようにする。 |
| 第6学年 | ○授業の始めにAIドリルを活用したことで、基礎学力が定着してきた。<br>○問題に取り組む際は、求めたいことは何かや、そのために必要な値は何かを自分で考えさせる。そのために、計算の方法だけではなく、問題文の読み取り方について、児童と繰り返し確認しながら授業を進めたことで、粘り強く最後まで取り組む場面が多く見られた。<br>◎互いの考えを見合ったり、話し合ったりする時間を設けたことで、分かったことや他の考えを取り入れて、自分の考えを表せる児童が増えた。<br>●既習事項の使い方のポイントや視点を助言したが、課題解決の道筋が抱けない児童が一定数いた。 | ○基本的な内容や学習した課題や類似した学習問題は比較的解けている。<br>○自分の意見を説明したり、発表したりする児童も多く、友達の意見から考えを広げられるように昨年より多くなってきた。<br>●基礎・基本の内容理解に差があり、活用問題に取り組むとき、粘り強く答えを見付け出そうとせず、すぐあきらめてしまったり、取り組めなかったりする児童がまだ見られる。 | ○授業の始めにAIドリルを活用し、基礎学力を定着させるとともに、ゆっくりコースなどは、九九の練習プリントなどコースの実態に合わせて課題を変更して取り組ませる。<br>○練習問題に取り組ませる際は、児童の習熟度に合った練習問題に取り組ませる。また、机間指導において、躓きのある児童に対し、既習事項の使い方などを助言し、問題を解いていく過程を数多く経験させていく。<br>◎見合い・話し合いの中で、分かったことや他の考えを取り入れたいことを発表させ、全体で共有する。特に良かった点を全体で検討することで、よい考えを価値付け、整理させ、授業内容から自分の学習を振り返るポイントを意識して、学習をまとめていけるようにする。 |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度 【社会】科　授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | | | |
| 第2学年 | | | |
| 第3学年 | ○児童が自ら情報を読み取る意欲をもてるように、資料の見方や、活用の仕方を繰り返し確認したり、ペアやグループで調べたことを共有・話し合いする機会を意図的に設定したりしたことで、興味をもって学習に取り組むことができた。<br>○単元や学習ごとに様々な調べ方やまとめの形を取り入れ、多面的、多角的な見方考え方を養うことができた。<br>●調べて分かったことを表や文章にまとめる活動では、作業時間を確保したり、個別指導を行ったりしたが、まとめることが難しい児童がいる。 | ○提示された資料に興味や関心をもち、何について表されているかをすすんで考えようとする児童が多い。<br>●学習課題を自ら見付けたり、調べて分かったことや考察したことを次の学習課題に結び付けたりする経験が少ない。<br>●資料に対して、関心をもって学習に取り組んでいるものの、それが知識として定着していない児童が多い。 | ◎児童が考えをもつ時間を確保するとともに、提示する資料の精査を行い、自分事として学習活動に取り組めるよう働き掛ける。<br>○教師と一緒に丁寧に資料の読み取り、考察したことを児童同士で交流することで、社会科の見方や考え方を働かせるための素地を養っていく。<br>○学んだ内容の復習を繰り返し行う時間を確保することで、学習内容の確実な定着を図っていく。 |
| 第4学年 | ○ノートやスライドを用いて、各機関の関わりなどが分かるようなまとめをつくることができる児童が増えてきた。<br>○各時間の学習内容から、学習問題に対する答えをつくることができる児童が増えた。<br>●気付いたことや疑問から、自分なりの考えをもつことができない児童がいる。<br>●問題を解決するために、自ら資料を収集したり情報を選択したりすることが難しい児童がいる。 | ○学習内容を自分事として捉え、日常生活で実践に移そうとする意欲的な姿が見られる。<br>○各都道府県に関する学習において、多くの児童が意欲的かつ積極的に取り組む姿が見られる。中には、地図上の形状を確認しただけで、正しい都道府県名を解答できる児童も存在しており、高い関心と知識の定着が伺える。<br>●自発的な問いから自分なりの意見を組み立てたり、課題解決に向けて膨大な情報から必要なものを取捨選択したりすることに難しさを感じる子がいる。<br>●各種資料から必要な情報を読み取る力には個人差があり、データの傾向やつながりを捉えることに難しさを抱える児童が散見される。 | ○児童の豊かな生活経験を生かしつつ、資料の着目すべき点を具体的に示すなど、資料読解力の向上に重点を置いた指導を行う。<br>○児童の「学びを自分事として捉える意欲」や「高い関心」をさらに引き出し、自発的な問いへと繋げるため、比較を用いた導入部分の演出を工夫し、課題解決的な学習過程を重視した授業を展開する。 |
| 第5学年 | ○グラフや表の見方を指導したことで、情報の読み取り方を身に付けることができた。<br>○調べたことを基に、児童自身がまとめを書くことにより、概念的知識を身に付けることができる児童が増えた。<br>●調べ学習を行うときに、教科書の文章と資料を関連付けて読み、さらに興味が湧いたことや疑問に感じたことを資料集や図書資料、インターネットを用いて調べるなど学習の手順を示したが、個人差が大きく、教科書から情報を得ることで精一杯な児童もいた。 | ○地理的分野に興味や関心を示している児童が増えてきた。<br>○身近なことや経験したことと学習を関連付けて考えようとする児童がいる。<br>●調べ学習を行う際に、教科書や資料の見方が分からず、情報を読み取ることができない児童がいる。<br>●学習したことを局所的な事例として捉えてしまい、概念的知識として捉えることができない児童が多い。<br>●調べたことを自分の言葉でまとめたり説明したりすることができない児童が多い。 | ◎調べ学習を行うときに、教科書の文章と資料を関連付けて読み、さらに興味が湧いたことや疑問に感じたことを資料集や図書資料、インターネットを用いて調べるなど学習の手順を示し、調べ学習をどの児童も行うことができるようにする。<br>○調べたことを基に、児童自身がまとめを書くことをより充実させることで、概念的知識を身に付けることができるようにする。また、苦手な児童への支援として、大切な言葉や例文を提示する。<br>○グラフや表の読み取り方を繰り返し指導し、情報の読み取り方を身に付けさせる。 |
| 第6学年 | ○資料を厳選し、読み取る時間を確保したことで、資料から読み取ったことを発表する活動に意欲的に取り組めた。<br>○資料を読み取り、課題に対して自分で調べて事実を確かめるという学習形態が定着した。<br>○学習テーマを設定し、グループに分かれて調べ学習をし、スライドにまとめて発表する活動に積極的に取り組んだ。ICTの活用により、必要な資料を選んだり、分かりやすく伝えたりする力が身に付いた。<br>●自分で工夫してまとめるように声掛けをし、手本となる児童のノートを提示したが、板書を写すのみとなる児童がいた。 | ○教科書や資料集等から必要な情報を読み取り、ノートやスライドにまとめ、自分の考えを発表することができる児童が多い。<br>○政治や歴史に興味や関心をもって、さらに学ぼうと意欲的に取り組む児童が多い。<br>●資料から読み取った情報や、授業での学習内容を基に、自分の考えやまとめを、自分の言葉でまとめることを十分に行うことができない児童がいる。<br>●板書された内容以外の考えや知識をノートにまとめる技術がない児童がいる。 | ◎資料を読み取り、児童から出た疑問や発見から学習問題を導き出し、教科書や資料集で調べて事実を確かめるという学習過程を定着させる。<br>○自分の言葉で学習のまとめをするときに、資料から読み取った情報で大切なことやキーワードは何かを確認してから、まとめる時間を確保する。その際に、見本を示したり、ペアやグループ学習にしたりするなど苦手な児童もすすんで取り組めるように工夫する。<br>◎話し合いによってより理解が深まるような学習問題を設定し、異なる立場に分かれたり視点をいくつか設けたりして、充実した話し合いになるように工夫する。<br>◎学んだことと自分たちの生活との関わりについて、考えさせる学習を充実させる。 |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度【家庭科】授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | | | |
| 第2学年 | | | |
| 第3学年 | | | |
| 第4学年 | | | |
| 第5学年 | ○各授業の終末に振り返りを行い、自分の課題や成功体験を記録したことで、次の活動への見通しをもちながら主体的に学習に取り組む児童が増えた。<br>○家庭と連携した活動を取り入れたことで、家庭科の学習を通して家庭の一員としての役割を考える機会が増えた。<br>●学習活動の目的や意義について考える場を設定したものの、「どうしたらもっとよくできるか」まで主体的に考え、改善につなげる児童には個人差が見られた。 | ○調理実習では、手順を確認しながら安全に調理しようとする姿が見られた。班での役割分担や協力が円滑にできていた。<br>○裁縫では、基本的な技能の習得が進み、自分のペースで丁寧に取り組む児童が多かった。<br>●調理実習では、手順の仕方など、理由を意識せず、作業する場面が見られた。<br>●裁縫に苦手意識を持つ児童は、基本的な技能を身に付けていないため途中で諦めたり、友達に頼ったりする部分があった。 | ○「なぜそうするのか」「どうしたらもっとよくできるか」といった目的意識が不足していた。学習の目的や意味を明確にする場を設け、各活動の前後で対話を通して考えさせる時間を確保する。<br>○家庭との連携を高める必要があった。各学期に１回以上家庭と連携した活動を取り入れ、児童が家庭科を通して家庭の一員としての意識をもてるようにする。<br>◎授業内容と家庭の生活がつながりを児童に考えさせながら授業を行い、学習したことを生活に生かそうとする態度の涵養を図る。<br>◎単元の最後には、自分の課題やグループの成功体験を振り返りとして記録し、次の活動に繋げていく。 |
| 第6学年 | ○調理実習では、道具の使い方の注意点に気を付け、手順を確認しながら自分たちで調理計画を立て実習を行うことができた。<br>○協働的な活動を多く取り入れ、児童同士で役割分担を考えたり、教え合いや助け合いを自主的に行ったりしていた。<br>●裁縫の学習などでは、学習の習熟に差があると、ペア活動が成立できず、班のメンバーなどの意図的な調整が必要だと感じた。 | ○調理実習では、安全に留意しながら手順を確認し、自分たちで計画的に活動を進めることができている。<br>○協働的な活動を通して、役割分担を考えたり、教え合いや助け合いを行ったりするなど、主体的に学習に取り組む姿が見られる。<br>●裁縫などの技能を必要とする学習では、技能習得の個人差が見られる。<br>●技能の習熟度の差により、ペアやグループでの学習が円滑に進まない場面があり、互いに学び合う力をさらに高める必要がある。<br>●自分の技能の課題を把握し、よりよい方法を考えながら学習を進める力を育成する必要がある。 | ◎児童同士が教え合い、助け合う場面を意図的に設定し、協働的に課題を解決する力を育成する。<br>○協働的な活動を取り入れてきたが、技能の習熟度に差がある場合には、一部の児童に活動が偏ることがあった。<br>◎技能の習熟度を踏まえたグループ編成や役割分担を工夫し、互いに学び合いながら活動できる学習環境を整える。<br>○裁縫などの技能学習において、個々の習熟度に応じた支援や学び合いの場の設定が十分ではなかった。<br>◎裁縫や調理などの技能学習では、手本動画や実演、段階的な課題を取り入れ、個に応じた支援を充実させる。<br>○児童同士が効果的に教え合い、学びを深めるためのグループ編成や支援の工夫が必要であった。 |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度【理科】授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | | | |
| 第2学年 | | | |
| 第3学年 | ○授業の展開を、「問題を立てる」「予想を立てる」「実験をする」「考察をする」「まとめをする」と固定することにより、児童に学習の見通しをもたせることができた。<br>●「考察を立てる」場面では、児童の意見が偏ってしまい、多様な考えを引き出すことができなかった。結果の表し方等工夫する必要があった。 | ○観察に対して積極的に取り組む児童が多くいる。植物の種をまいたり、生き物の世話をしたりするなど抵抗なく行うことができた。<br><br>●植物や生き物を育てるなど、活動に対して積極的だが、観察、実験の中から問題をもったり、調べたりと学習につなげていく場面では考えをもつ児童が少ない。 | ○導入部分において、実物を調べたり、触ったりするなどの体験的な学習を重視し、問題をつくれるようにしていく。<br>◎考察する際には、自身の考えだけではなく他の児童と考えたことを伝え合う時間を確保し、実験や観察した結果を踏まえて、考えを広げたり深めたりできるようにする。。<br>○生活経験や予想など学習に対する想像を膨らませてから問題づくりを行う。問題をつくる前段階の活動を重点的に行う。 |
| 第4学年 | ○導入時に生活経験や既習事項を想起する活動を行うことで、根拠のある予想を立てられるようになってきた。<br>○友達との話し合いの時間を十分に確保したことで、考えを深めたり広げたりする児童や、新しい問題を自ら見いだせる児童が多くなった。<br>●活動時間を十分に確保し、一人で考えた後に友達と話し合うように促したが、一部の児童に頼りきりになっている児童が数名いたため、さらなる個別の支援が必要であった。 | ○すすんで発言できる児童が多く、話し合いも活発である。<br>○ノートへの記録が丁寧な児童が多い。<br>○観察、実験に対して意欲的に取り組む児童が多い。例えば、電池のはたらきの実験や空気と水の実験に意欲的に取り組み、多面的に様々なことに気が付き、表現することができる。<br>●気付いたことを問題につなげられると良い。<br>●問題に対して根拠のある予想を立てることはできるが、科学的な根拠とは言えず、感覚的な根拠となっている児童が多い。<br>●観察、実験で得られた結果を基に、自らの言葉で考察することが苦手な児童が多い。 | ◎考察するとき、考えるべき視点を明確にし、積極的に友達と情報を共有する時間を十分に確保する。また、より良い考察を全体で紹介したり、文例を示したりしながら、考えを広げたり深めたりできるようにする。<br>○実験中に一人一人に役割をもたせることで、主体的に実験に取り組めるようにする。<br>○導入時に生活経験や既習事項を想起する活動を行い、問題を見いだしたり、それを根拠とした予想が立てられたりする活動を重視する。（まずは例を示すようにする。） |
| 第5学年 | ○導入時に生活経験や既習事項を想起する活動を行うことで、根拠のある予想を立てられるようになってきた。<br>○単元末の振り返りの際に、映像資料を活用したり、生活と関連付けて考える時間を設定したりしたことで、知識や技能の定着を図ることができた。<br>○問題解決の流れに沿った学習を行ったことで、問題解決の見通しをもてる児童が多くなった。<br>●問題の導出や考察の場面で、なかなか自分の課題や考えをもてない児童がいた。さらなる手立てや個別の支援が必要であった。 | ○ペアや班活動の話し合いが活発にできる。<br>○実験・観察に意欲的・積極的に取り組むことができる。<br>○ICTの活用により、意欲的に調べ学習に取り組めている児童が多い。<br>○帯活動としてICTを活用したドリル問題に取り組んでいる。徐々に既習事項の定着が見られる。<br>●ノートの書き方が定着していない児童が一定数いる。<br>●理科に苦手意識をもっている児童は、考察の場面で自分の考えを表現することに課題がある。<br>●一部の児童は、同じ班の児童に実験や観察を任せっきりになっている様子も見られる。 | ◎めあてを明確にし、予想を立てた上で、実験・観察で検証し、考察できる学習過程を徹底する。また、考察の仕方を提示し、詳しく記述できるように指導する。<br>○再度、理科のノートの構成を指導を強化し、問題解決型の学習過程を児童にも意識させる。<br>○単元末だけではなく、単元の途中にも、AIドリルや教科書の演習問題を活用した演習の時間を設け、基礎的・基本的な学力の定着を図る。<br>○実験・観察の際には、実験器具の基本的な使い方を丁寧に指導し、必ず全員が実験器具を安全に使ったり観察できるようにする。<br>○単元末に、知識の定着を図る振り返りの時間を確実に確保するようにする。 |
| 第6学年 | ○単元末の振り返りを行う際、知識をまとめるだけでなく、映像資料を活用したり、生活と関連付けて考えたりする時間を設定したことで、知識の定着を図ることができた。<br>○考察場面では、考える時間を保障し、キーワードを提示することで、自分の言葉で表現できる児童が増えてきた。<br>●個人で考えた後、根拠をもとにグループで話し合ってきたが、自分の意見をより妥当なものにできる児童は多くなかった。さらなる手立てや個別の支援が必要であった。 | ◎実験に意欲的に取り組むことのできる児童が多い。<br>◎既習事項が身に付いたと実感している児童が増えた。<br>○問題をつくる場面では、自分の疑問や確かめたいことを基に友達と交流しながら問題を見いだすことができるようになった。<br>○考察場面では、自分が考察した内容を友達と交流することで、考察をさらに深めることができるようになった。<br>○振り返りの中で、学んだことからさらに疑問を見いだし自主的に調べてみようとする姿が見られるようになった。<br>○ICTを利用することで、知識の定着を図ることができるようになった。<br>●徐々に人数は増えているが、発言できるのは一部の児童であり、特に理科の学習を苦手と感じている児童の発言は少ない。<br>●ノートに自分の考えや、考察、振り返りをまとめることを負担に感じ、主体的に取り組めない児童が一定数いる。 | ◎めあてを明確にし、予想を立てて実験や観察に臨めるようにする。実験・観察で予想を検証し、考察できるようにする。考察の仕方は、考察の仕方を提示し詳しく記述できるように指導する。<br>○引き続き単元末だけではなく、単元の途中にも、AIドリルや教科書の演習問題を活用した演習の時間を設け、基礎的・基本的な学力の定着を図る。<br>○クラス全体での共有の前に、班やペアで活動する機会を十分に設けることで、全体での発言が苦手な児童が少しでも自身の意見に自信をもつことができるようにする。また、机間巡視しながら児童のノートの記述を確認し、一人ひとりの考えを認めるような働き掛けを行う。<br>◎めあてや、まとめなど板書内容は最小限にし、ノートを書くことを負担に思っている児童でも取り組みやすくする。 |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度 【音楽】科　授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | ○手拍子をしたり、貨物列車をしたり、体を動かしたりすることで音楽の楽しさを感じることができた。<br>○グループで合奏したり、技能を教え合ったりし、考えたことを伝え合うことができた。<br>●鍵盤ハーモニカのタンギングや指使い音階の位置が覚えられない児童がいる。 | ○曲に関心をもち、積極的に歌おうとする児童が多い。<br>○音楽を聞いて体を自由に動かすことができる児童が多い。<br>○鍵盤ハーモニカに関心をもち、楽しみながら演奏しようとする児童が多い。<br>●鍵盤ハーモニカの指使いを覚えられなかったり、タンギングができなかったりする児童が一定数いる。<br>●楽譜が読めないため、初めての歌を歌い始めるのに時間を要してしまうことがあった。 | ○曲想に合わせて、体を動かしたり、リズムや速さ、強弱等を感じながら歌う活動を増やすことで、音楽をより楽しめるようにする。<br>◎ペアやグループで合奏したり、技能を教え合ったりし、考えたことを伝え合う場面を十分に設ける。<br>○鍵盤ハーモニカの奏法を分かりやすく示し、練習の時間を十分に確保する。<br>○歌う回数や鍵盤ハーモニカを弾く時間を増やし、音楽に親しみをもてるようにする。 |
| 第2学年 | ○発表会を設定したり、帯で鍵盤ハーモニカの練習に取り組んだりした結果、鍵盤ハーモニカをスムーズに弾ける児童が増えた。<br>○リズム打ちや曲に合わせ体を動かす活動を通して、楽しく音楽に関わる児童が増えた。<br>●楽器を扱うことやリズムをとることが苦手な児童のために、個人指導をする必要がある。 | ○音遊びやリズム遊びに興味をもち、楽しんで歌ったり表現したりし、意欲的に学習に取り組む児童が多い。<br>●曲の雰囲気やリズムなどから、歌い方や身体の動かし方を工夫して表現することには個人差がある。<br>●音符を読んだり、鍵盤ハーモニカで曲を弾いたりすることが苦手な児童がいる。 | ○曲のリズムや速さ、強弱等に合わせて体を動かす活動を多く取り入れ、音楽の楽しさを感じさせるようにする。<br>◎グループで課題や遊びに取り組む時間を十分に取り、歌を一緒に歌う楽しさや、楽器を演奏する楽しさを味わわせる。<br>○曲を音符で歌ったり、リズム打ちをしたりしてリズムを全体で確認してから鍵盤ハーモニカの練習をする。 |
| 第3学年 | ○リコーダーの学習をスモールステップで行い、リズムの習得も確実に行ったことで、児童が楽しみながらも知識・技能を習得することができた。また、得手不得手を踏まえ個別最適な学びを取り入れることで、自分達の実態に応じた楽曲やパートを選択することができた。<br>●音楽が苦手な児童や不器用な児童に関しては、一人ひとりに合ったよりよい活動やパートを提供する必要がある。 | ○リコーダー運指練習で身に付いたリズムを音符として認識し、リズム譜を読むことにつなげることができる。<br>○表情豊かに歌い、曲に合う発声で歌唱することができる。<br>○鑑賞では、音楽に関心をもち、意欲的に取り組む児童が多い。曲にまつわる歴史や文化への興味関心およびより深い鑑賞につなげることができる。<br>●苦手であったり理解に時間がかかる児童を見極め、対応を工夫する必要がある。 | ○わらべうたなどペアやグループでの手遊びや少人数の合奏で、楽しみながら技能を高め合うようにする。<br>◎歌唱やリコーダーのほかに、クラップ（手拍子）アンサンブル、ボディパーカッションなど、活動の時間をなるべく多くとることで、音楽をより楽しい時間にする。<br>○鑑賞を通して曲の背景や世界の音楽に関心を広げる。楽器の種類や奏法・特性に親しみをもたせる。<br>○一人一人の取り組みの様子を見取り、苦手な部分を繰り返し練習したり、教師や友達と一緒に取り組んだりするなど、児童に合った方法を取り入れ、できることを増やしていく。 |
| 第4学年 | ○リコーダーを楽しみながら自分の課題を見付け活動に取り組むことができた。個別最適な学びを念頭に置くことで、児童自身が課題を選択することができた。<br>○ペアやグループで協力して活動に取り組む姿が見られた。また、友達と合わせることの楽しさを感じることができる児童が多くなった。<br>●音楽が苦手な児童や不器用な児童に関しては、一人ひとりに合ったよりよい活動やパートを提供する必要がある。 | ○様々な音楽活動を楽しみ、意欲的に取り組むことができる。<br>○曲想や音楽の特徴を感じ取り、自分なりに歌ったり演奏したり、自分の言葉で考えたことや感じ取ったことを伝えることができる。<br>●曲想に合った歌い方を考え、自信をもって表現することが難しい児童がいる。<br>●技能や知識の定着に個人差があり、リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指や奏法、読譜に難しさを感じる児童がいる。 | ◎様々な音楽活動への意欲を生かし、友達と一緒に歌ったり演奏したり、互いの表現のよさを伝え合ったりする活動を取り入れ、音楽を通して関わり合いながら学べるようにする。<br>○曲想や音楽の特徴を捉えやすくするため、音楽を形づくっている要素や、児童の気付いたことと感じ取ったことを板書で整理して視覚的に示す。<br>○曲想に合った歌い方を具体的にイメージできるよう、息の強さや発音の仕方、フレーズの取り方など、歌い方を実際に試したり聴き比べたりする活動を取り入れ、自分がよいと思う表現を選択する活動を取り入れる。<br>○技能や知識の定着状況に応じて、学習用タブレット端末で手本を確認する、個人で繰り返し練習する、友達や教師と一緒に練習するなど、自分に合った学習方法を選べるようにする。また、全部演奏する、一部分演奏する、簡単な楽譜で演奏するなど、課題も自分で選択できるようにする。 |
| 第5学年 | ○ペアやグループ活動を多く取り入れると友達と話し合い楽しみながら活動を進めることができた。<br>○アンサンブルでは、自分の役割を見出しながら、自分のできる楽器やパートを選択し参加することができた。<br>●音楽が不得意な児童に対して、個別最適な学びを提供する必要がある。 | ○表現活動に意欲的に取り組み、曲想や音楽の特徴を感じ取りながら歌ったり演奏したり、音楽をつくったりすることを楽しんでいる。<br>○鑑賞では、音色やリズム等、音楽を形づくっている要素に気付き、曲から感じ取ったことを自分なりの言葉で表すことができる。<br>●活動そのものを楽しむことはできるが、学習のねらいを意識して表現を工夫したり、音楽から気付いたことと感じ取ったことを関連付けて考えたりすることが難しい児童がいる。<br>●技能や知識の定着に個人差がみられる。 | ○どのように表現したいかを考える時間を設け、ペアやグループで互いの表現を聴き合う活動を取り入れ、それぞれのよさに気が付くことができるようにする。<br>○鑑賞では聴く視点を示し、気付いたことと感じ取ったことを関連付けて考え、伝え合う活動を取り入れることで、音楽のよさや特徴について考えを深められるようにする。<br>◎学習のねらいを明確に示し、「どこに注目するか」「何を考えるか」など、ねらいに沿った活動内容を具体的に示す。気付いたことと感じ取ったことを整理して板書し、視覚的にも理解できるようにする。<br>○技能や知識の定着状況に応じて、学習用タブレット端末で手本を確認する、個人で繰り返し練習する、友達や教師と一緒に練習するなど、自分に合った学習方法を選べるようにする。振り返り時に、「わかったこと」「できるようになったこと」を確認し、学びの実感をもたせる。 |
| 第6学年 | ○音楽に興味をもち、意欲的に学習できる児童が多く、技能面で伸びた児童が多かった。<br>○クラス合奏を行ったときは、自分の担当楽器が音楽の中でどのような役割になっているかを理解した上で参加している児童が増えた。<br>○楽譜の読み方を理解し、読譜能力が上がった児童が多くいた。<br>●音楽が苦手な児童でも楽しみながら取り組める学びを提供する必要がある。 | ○学習のねらいやめあてを理解し、見通しをもって意欲的に活動に取り組むことができる。<br>○これまで身に付けた知識や技能、自分の得意なこと生かしながら、音楽活動に取り組むことができる。<br>●技能の習得に意識が偏り、曲想や音楽の特徴を生かして思いや意図をもって表現を工夫することが難しい児童がいる。 | ○学習のめあてを毎時間確認し、何を意識して表現したり聴いたりするのかを〔共通事項〕と関連させながら示す。表現方法や練習方法を選びながら、見通しをもって活動できるようにする。<br>◎一人ひとりの得意なことや身に付けた知識・技能を生かせるよう、パートや役割を選択し、互いの表現を聴き合ったり考えを伝え合ったりすることで、協働的に学びを深められるようにする。<br>○技能の習得だけで終わらないよう、曲想や音楽の特徴に着目し、「どのように表現したいか」を考え、実際に試したり聴き比べたりする場面を設定することで、思いや意図をもって表現を工夫できるようにする。 |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度【図画工作】科　授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | ○めあてを分かりやすく提示したり、参考作品を見せたりすることで、児童が見通しをもちながらすすんで活動することができていた。<br>○身近な題材や用具を繰り返し使うことで、題材や用具の特徴や良さを理解できるようになってきた。<br>●めあてを正しく理解できず、ねらいに即した作品をつくることができない児童がいる。<br>●はさみの使い方や絵の具の塗り方など基礎的な技能について繰り返し指導をしたが、個人差が大きく、身に付いていない児童がいる。 | ○図工は好きで意欲的に取り組む児童が多い。<br>○道具の使い方や道具の用意はしっかりとできる児童が多い。<br>○画用紙や水彩絵の具で、楽しみながら作品を作る児童が多い。<br>●説明を聞いて、聞いた通りの手順やルールで行うことや後片付けができない児童が数名いる。<br>●のりやはさみを上手に使うことが苦手な児童が一定数いる。 | ○図工が好き、楽しいという気持ち、つくること、表現することへの意欲を継続させていけるような題材や言葉掛けをしていく。<br>◎説明を簡潔にし、活動の時間を十分に確保する。<br>○ルールや片付けのやり方については、できるだけ簡潔に話し、きちんと守らない児童への指導を徹底する。口頭で伝えるだけでなく、視覚でも理解できる伝えるようにし、板書に残すなどの工夫をする。 |
| 第2学年 | ○様々な材料の形や色を基に児童が造形活動を楽しむことができた。<br>○イメージを膨らませるための時間を確保したことで、友達と話し合って発想を広げる児童が多く見られた。<br>○はさみ、のり、カッターなどは、使い方を練習する課題を出すことで、技能の上達が見られた。<br>●絵の具で色を塗る技術やカッターの使い方に、個人差が見られる。 | ○図工の授業を楽しみにしている児童が多く、活動にすすんで取り組んでいる。<br>○ICT機器を使い、全体や個人に画像を用いて説明をすることで、イメージがつかみやすくなり、スムーズに制作に取り掛かることができた。<br>●絵の具を水で薄める、丁寧に筆で塗る、水のりの使い方など、基礎的な技能が身に付いていない児童がいる。<br>●ハサミの使い方がきちんと身に付いていない。 | ◎本時はどこまで進めること目標なのか分かりやすいめあてを示し、ポイントを分かりやすく示す。<br>○基礎的な技術を習得してから制作ができるように、カッターやハサミ、絵の具の使い方を練習する課題を出してから、その技能を生かした作品づくりができるようにする。<br>○造形あそびなどでは、途中で作品を見合う時間を十分に取り、友だちの良いところややってみたいと感じたことに再度取り組むことができるようにする。 |
| 第3学年 | ○本時のめあてを分かりやすく提示したことで、児童が見通しをもちながらすすんで活動することができていた。<br>○基礎的な知識・技能を押さえるための題材から発展的な題材に取り組む流れで制作したことで、一人ひとりの個性が表れた作品をつくることができた。<br>●はさみの使い方や絵の具の塗り方など基礎的な技能について、自分に自信をもてない児童が一定数いる。 | ○はさみで切ったり、色をクレパスで丁寧に塗ったり、絵の具を丁度よい濃さで塗るなど、基礎的な技能が身に付いている。<br>○新しい道具や技法についても説明を聞き、自分なりに応用して試してみたり、作業に取り入れてみたりする児童が多い。<br>●自分のイメージを基に作品を作る題材では、作業が進まない児童が一定数いる。活動内容を細かく説明したり、イメージが膨らむような発問をしたりする必要がある。<br>●教師の見本や作例を欲しがる児童が一定数いる。<br>●道具を扱うことはできるが、片付けを丁寧にしなかったり、机上整理ができなかったりするため。活動に集中して取り組めない児童がいる。 | ○様々な画材や技法を楽しむ活動を経てから、それを活用して制作する題材に移行することで、自分に合った画材や技法をすすんで選択できるようにする。<br>○布や段ボール、葉など、興味の湧く材料を使用していく。また、その材料の特徴から発想される物やイメージを広げ、児童が自分の題材やテーマを決定しやすくする。<br>◎イメージを膨らませるための時間をつくり、友達と話し合い全体で共有することで、発想を広げられるようにしていく。<br>○本題材で身に付けさせたい力を焦点化し、めあてを掲示することで、題材のねらいからずれることなく制作できるようにする。 |
| 第4学年 | ○題材をシンプルにし、活動しながら考えるものにしたことで、授業に参加しない児童を減らすことができた。<br>○友達と一緒に活動したり、友達と話し合ってアイディアを練る時間をとったことで、意欲的な児童が増えた。<br>●長い時間をかけて一つの作品を仕上げる題材は苦手である。 | ○題材に意欲的に取り組み、活動から気付いたことやできたことを、見付けたり話したりし、友達の作品の良さに気付いて発表したりすることができる。<br>●新しく習った技能や知識を覚えようとしたり活用しようとする意欲が低い児童がいる。<br>●振り返りのまとめの提出や、欠席してしまった際の作品づくりなどの、期日を守る意識が低い児童がおり、課題である。 | ◎良いところは言葉掛けをし価値付け、全体に共有していく。クラス全体で活動を行っている良さを感じられるように鑑賞の時間を大切にしていく。<br>○知識や技能を用いて発想したことを形にする経験を通し、新しく学習したことが役に立ち、楽しいことを実感できるようにしていく。<br>○学級担任と連携を強化し、児童が自分で制作期日を意識して活動に取り組めるよう言葉掛けを続けていく。 |
| 第5学年 | ○題意をつかみにくい児童に個別の配慮をしたことで、めあてをもって取り組むことができた。<br>○アイディアを練る時間を多く確保したことで、個々の発想が広がり、作品に個性が出た。<br>○既習の知識・技能をおさえてから制作したことで、自分に合った技法を選び、制作の幅を広げることができた。 | ○題材のねらいに沿って発想したことを、工夫して表すことができる児童が一定数おり、そのことを取り上げることで他の児童がより工夫して表すことができている。<br>●長期間の題材になったとき、ねらいの理解や意欲が鈍ってしまう児童が一定数いる。<br>●授業の規律や学習用タブレット端末使用時のルールが徹底されておらず、基本的な授業態度の改善が必要な児童がいる。 | ◎題材のねらいを理解できるようにするために、児童が考える時間を取ったり、アイディアを共有したりしていく。また、活動途中に児童の作品や活動を紹介することで、具体的に題材のねらいを示していく。<br>○思考を深めることが苦手で早く終わってしまう児童には、同じ題材の中で活動できることを見付けて造ることができるようにしていく。<br>○学習用タブレット端末使用のルールや授業の規律については学級担任と連携し、使用に関するルールを明確に示す。 |
| 第6学年 | ○題材のねらいに何度も立ち返ったことで、ねらいから大きく外れることなく、意欲を失うことなく制作を終えることができた。<br>○物語や有名な絵画を基にして発想したことで、自分なりのテーマを見付けやすくなり、作品を個性化することができた。 | ○学習に向かう姿勢が素直で意欲的である。教えたことに対して自分なりの考えをもち、工夫して表すことができている。<br>○作品鑑賞時の見方や思考の深め方が良く、友達の作品に対して意図を汲み取って感じたことを発表することができる。<br>●表したいことを思いつかない児童が一定数いるが、長期的なスパンで見守っていく必要がある。 | ◎毎時めあての確認をし、その授業で何を頑張ればよいのかを伝える。自分の活動には責任をもち、表現方法を選んだり、テーマを決めたりできるようにしていく。<br>○作品鑑賞の方法を工夫し、感想を発表する以外にも自分の作品の意図を説明したり、メッセージ形式で伝えたりするなど多様な鑑賞スタイルを取り入れる。<br>○学習意欲の高さを生かして、既習事項を生かして造りたいものを自分で決められるような題材を設定していく。 |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度 【生活】科　授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | ○アサガオを育てたり、地域の公園に探検に行ったりと、地域の人や自然、公共施設など児童の身近な場所や人と関わる活動を増やすことで児童の興味や関心を高めることができた。<br>○見つけたことをカードにかき、友達と伝え合う活動を増やすことで、自分の良さや友達の良さを発見できる児童が増えた。<br>●カードに体験して分かったことや考えたことをうまく表現できない児童がいる。 | ○あさがおの世話を毎日できる児童とできない児童の差がある。<br>○校庭や校舎内、地域の公園など、教室の外での活動を多く取り入れているので、児童は生活科を楽しみにしている。<br>○体験したことや観察したことを必ずカードに書くようにしているので、絵や文章が上手になってきている。<br>●グループで協力して調べたり発表したり、友達に伝え合う活動ができていないので、今後取り入れていきたい。 | ◎体験的な活動を多く取り入れ、地域の自然や人、公共施設への興味や関心を高め、すすんで関わり合おうとする意欲を高められるような学習過程を工夫する。<br>◎グループで調べたり、発表したりする活動をより多く取り入れる。<br>○体験したことや観察したことをまとめるだけでなく、伝え合う場面も設定し、自分の良さや友達の考えの良さに気付くような働き掛けをしていく。 |
| 第2学年 | ○野菜の世話や町探検などのように対象に直接関わる活動をより多く行うことで、興味や関心を強くもち、自発的に活動に取り組むようになってきた。<br>○友達と伝え合う活動の場面を増やすことにより、一人ひとりの発見を友達と共有したり、新たに気付いたりできるようになってきた。<br>●気付いたことや考えたことをうまく表現することが苦手な児童が少なくない。 | ○野菜の世話や観察を通して、それらの変化や成長の様子に関心をもち自主的に継続して世話するなど、親しみをもち取り組むことができる児童が多い。<br>●野菜の世話や町たんけんなどの活動には意欲的に取り組む。一方、活動で気付いたことや知りたいことを考え、ワークシートにまとめる活動は難しい児童がいた。 | ◎野菜の世話や町たんけんなど対象に直接関わる活動をより多く行うことで、興味や関心をもたせ、自発的な取り組みを促す。<br>○友達と伝え合う活動の場面を増やすことにより、新たな気付きや知りたいことを引き出し、ワークシートにまとめられるようにする。<br>○まとめ方を選択できるようにし、自分に合った方法で表現できるようにする。<br>○活動中に気付きや疑問を意識できるよう、教師による継続的な言葉掛けを行う。 |
| 第3学年 | | | |
| 第4学年 | | | |
| 第5学年 | | | |
| 第6学年 | | | |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度 【外国語】科　授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | | | |
| 第2学年 | | | |
| 第3学年 | | | |
| 第4学年 | | | |
| 第5学年 | ○話すことにおいて、友達と英語を使って積極的にコミュニケーションをとる児童が多い。<br>○聞くこと・話すこと・読むことにおいて、英語の語彙が増えていった。<br>●聞くことや読むことにおいて、学習内容の定着が難しい児童もいる。<br>●書くことにおいて、四線や必要なスペースを意識して書くことが難しい児童がいた。 | ○聞くことにおいて、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる児童が多い。<br>○読むことにおいて、大きな声で発音することができる児童が多い。<br>○話すことにおいて、積極的に自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現で伝え合うことができる児童が多い。<br>○書くことにおいて、大文字、小文字を活字体で書くことができる児童が多い。<br>●聞くことにおいて、短い話の概要を捉えることが難しい児童がいる。<br>●読むことにおいて、文字の名称を正しく発音することが難しい児童もいる。<br>●話すことにおいて、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして伝え合うことが難しい児童がいる。<br>●書くことにおいて、大文字、小文字を活字体で書くことが難しい児童もいる。 | ○聞くことにおいて、毎時間、既習事項を復習する時間を設ける。決まったフレーズの定着を目指した活動時間を確保する。<br>○読むことにおいて、毎時間、文字の名称を発音する時間を設ける。新しい単語や英語表現に関して、個別にALTの音声を聞いて発音を確認できるように音声教材を用意する。<br>○話すことにおいて、毎時間、友達や教師とコミュニケーションを取る時間を設け、既習フレーズを使った会話を行い、習熟を図っていく。<br>◎話すことにおいて、毎時間、既習事項を復習する時間を設ける。決まったフレーズの定着を目指した活動時間を確保する。<br>○書くことにおいて、学習用タブレット端末での個別進度に合わせた学習時間を設ける。 |
| 第6学年 | ○聞くこと・話すことにおいて、友達とコミュニケーションを取る時間を多く確保したことで、英語を使った会話を楽しむ姿が見られた。<br>○聞くこと・話すこと・読むことにおいて、英語の語彙が増えていった。<br>●書くことにおいて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、四線や必要なスペースを意識して書くことが難しい児童がいた。 | ○聞くことにおいて、５年生までに培った力が定着している児童が多い。<br>○読むことにおいて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かった上で正しく発音できる児童が多い。<br>○話すことにおいて、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現で伝え合うことができる児童が多い。<br>○書くことにおいて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる児童が多い。<br>●聞くことにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることが難しい児童がいる。<br>●読むことにおいて、既習事項の定着に差が見られる。<br>●話すことにおいて、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことが難しい児童がいる。<br>●書くことにおいて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことが難しい児童がいる。 | ○聞くことにおいて、毎時間、様々な英単語（イラストとスペル）や英会話に触れさせることで、英語に親しみ、単語力の幅を広げていく。<br>○読むことにおいて、毎時間、既習の英単語（イラストとスペル）に触れさせることで、既習事項の定着を図る。新しい単語や英語表現に関して、個別にALTの音声を聞いて発音を確認できるように音声教材を用意する。<br>◎話すことにおいて、毎時間、既習フレーズを使ったコミュニケーションを行い、習熟を図る。英語を使った問いかけや正しい答え方を掲示し、身に付けさせていく。<br>○書くことにおいて、単元の最後にまとめて書くのではなく、音声で十分親しんだ表現をその授業時間内で書く時間を設ける。英文を書く時のポイントを毎回指導し、単元の終わりには自分の書いた文章を確認し振り返る時間を設ける。 |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度 【道徳】科　授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | ○毎時間ワークシートを活用し、個人で考える時間を確保したことで、一人一人が自分の考えをもって話し合い活動に臨むことができた。話し合いでは、自分の考えと比較しながら友達の考えを聞くことを繰り返し指導した。自分と異なる考えも大切にしようとする姿勢が見られた。<br>●ワークシート自分の考えを書けない児童もいる。<br>●自分事として捉え、自分の生活を振り返ったり、自己の生き方について考えたりすることができない児童がいる。 | ○教材の意図を正しく理解できる児童が多い。<br>○自分の考えをワークシートに書ける児童が多い。<br>○学習を通して、より良い行動について考え発表することができる児童が多い。<br>●教材の中では、正しい判断ができても、実際の生活ではできない児童がいる。<br>●自分の考えを書き起こすことができない児童が一定数いる。 | ○教材で学んだことを、適時振り返り、授業で学んだことを実際の生活でも生かせるように意識をもたせるように働き掛ける。<br>◎ペア活動やグループ・全体での共有の時間を設け、考え方は一つではないこと、様々な考え方があることを価値付けていく。<br>○授業の振り返りの時間を十分に確保し、自他の成長を実感できるような授業展開を組み立てる。 |
| 第2学年 | ○振り返りの時間を確保する中で、考え方や見方が変化した児童が発表する場面をつくることができた。<br>○友達の考えを聞いたり、役割演技を行ったりすることを通して、多面的・多角的な視点から考えることができる児童が増えた。<br>●役割演技で登場人物等の気持ちを捉えることができても、自分事として考えることは難しい児童がいた。<br>●自分の気持ちや考えをうまく表現できない児童が一定数いる。 | ○教材を通して、道徳的価値を理解しながら学習に取り組み、自分の考えをもつことができている。<br>○友達の考えを大切にし、異なる考えも受け入れようとする姿勢が見られる。自分の考えと比べながら聞く児童も増えてきた。<br>●登場人物等の気持ちを自分事として考えることが難しい児童が多い。<br>●自分の考えをもつことはできているが、自分の生活と関連付けて考えを深めようとする児童が少ない。 | ◎友達の考えを聞いたり、役割演技をしたりすることを通して、多面的・多角的に考えることができるようにする。話し合い活動では、自分の立場を明確にし、自分の考えと比べながら話し合うよう促していく。<br>◎友達の考えを聞き、見方や考え方が変化した児童に意図的指名を行い、共有する。また、自分の考えが変わったり、深まったりしたことを書く活動を重点的に行う。<br>○振り返りでは、視点を明確にし、自分の生活と関連付けて考えさせるようにする。 |
| 第3学年 | ○場面演技を取り入れることで、学習内容と実生活を結び付けて考える力が高まり、自分の経験を重ねながら考える姿が多く見られた。<br>○意見を発表する場面では、友達の考えに触れながら、自分の意見を言語化することができるようになってきた。<br>●場面演技が活動としては盛り上がるものの、その後の振り返りや話し合いの中で学びに繋げる意識が薄れてしまうことがあり、活動と振り返りを繋ぐ工夫が求められる。<br>●意見を述べることはできても、「なぜそう思ったのか」「他の意見とどう違うのか」といった深まりには個人差があり、思考を深めるための支援が必要である。 | ○場面演技を入れ、演技をして終わるのではなく、演じた人と見ていた人がどう感じたかを共有することで考えを深めることができた。<br>○個々で考える時間を確保し、グループで共有したことで、自分の考えとの相違点や共通点を見付けながら友達の考えを聞くことができる児童が増えた。<br>●自分の考えや振り返りを書ける児童は多いが、一言にとどまり、なぜそう思うのかや、自身の実生活に置き換えて考えたことなどを書けない児童が多い。 | ○場面をより実生活と関連して考えられるように、場面演技の活動を多く取り入れた授業を展開する。<br>◎意見の発表はできているので、なぜそのように考えたのか、違う意見に対して自身の意見がどうなのかなど、教師の側からの発問をより計画的に行う。<br>○全体での話し合いの中で、児童の思考を深める問い返しを行っていく。<br>○導入で実生活を考えさせ、振り返りで導入の時に自分がどう考えていたのか、心境の変化があったのかが分かるようにワークシートに書き表す活動に重点を置く。 |
| 第4学年 | ○日常生活と関連して考えることができるようにするために、授業の導入と振り返りで日々の生活を振り返りながら学習することができた。<br>○話し合いを多く取り入れることで、他者の考えを聞き、多角的に価値項目について考えることができた。<br>●道徳的な価値については理解しているが、自分の生活体験と結びつかない児童や実践的態度につながらない児童もいる。<br>●友達が考えた意見を受け入れられず、自分の意見に固執する児童がいる。 | ○身近な人との関わりやこれまでの生活経験を振り返り、道徳的諸価値の理解を深めようとすることができてきている。<br>○特に相互理解、寛容について考えたことを生かして学校生活をより良くしようとする姿が多く見られ、友達の意見を受け止めたり、違う意見にも耳を傾けたりする児童が増えてきた。<br>●「こうしたほうが良いと言われたから。」などと形式的な捉えになっていて、自身が考えた末に理解したものではない児童がいる。 | ◎生活の中で道徳心に迫る葛藤場面をその都度取り上げて自分の考えをもたせることによって、道徳的諸価値の必要感を味わう機会を設定する。<br>○相互理解、寛容以外の道徳心も、より良く生きたり、より良く人と関わっていくために大切だと感じられるように、道徳心などについて授業以外でも話題に出していく。<br>○道徳的諸価値の理解を基に、様々な事象を多面的、多角的に捉え、自己の生き方について考えられるように、ペア学習や班活動、役割演技など協働できる場をつくるとともに、自分の意見と友達の意見を比べさせるなど話し合い活動の工夫を取り入れていく。 |
| 第5学年 | ○ペアやグループでの話し合い活動を通して、多様な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。<br>○役割演技を取り入れたことで、登場人物の心情や立場を具体的に捉え、価値項目についてより深く考えることができた。<br>●話し合い活動では友達の考えを聞くことはできるものの、自分の考えを再構築したり深めたりする児童をさらに育成する必要がある。 | ○導入で自分の考えを可視化させることで、児童が考えの変化に気付くことができている。<br>○友達と考えを交流しながら、自分の考えを広げたり深めたりしようとする姿が見られた。<br>●登場人物の気持ちを考えることは得意だが、自分の経験に戻ったときに具体的に考えることができない児童が多い。 | ○導入で日常生活や普段自分が考えていることを明確にしてから教材文を読むことを徹底し、児童が自分事として考えられるようにする。<br>◎ペアやグループで話し合う時間を取り、友達の考えを聞くことで、より日常生活に関連付けて考えることができるようにする。<br>○振り返りの時間では、自分の考えの変容に着目させることで、価値項目についてより深く考えることができるようにする。 |
| 第6学年 | ○問題を自分事として捉えられるような導入や発問を意識したことで、自分の意見をもち交流できている児童が多かった。<br>○学習用タブレット端末を活用し、児童の考えを集約した。<br>●自分の意見はワークシートに書けているが、積極的に発表したり、自分の意見を伝えたりできる児童が少なかった。 | ○問題を自分事として捉えながら考え、自分の意見をもって交流活動に参加できる児童が増えている。<br>○学習用タブレット端末を活用することで、友達の多様な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができている。<br>●自分の考えを文章で表現することはできるが、全体の場で積極的に発表したり、自分の考えを伝えたりすることに苦手意識をもつ児童が見られる。<br>●友達の考えを聞くことはできるが、自分の考えと比較しながら考えを深めたり広げたりする力には個人差が見られる。 | ○自分事として考えられる導入や発問を工夫してきたが、自信をもって発表したり意見を交流したりするための支援が十分ではなかった。<br>◎学習用タブレット端末で共有した考えを比較・分類する活動を取り入れ、多面的・多角的に考えられるようにする。<br>◎ペアや小グループでの話合い活動を充実させ、安心して自分の考えを表現できる機会を増やす。<br>○発言に不安を感じる児童もいるため、安心して自分の考えを伝えられる場の設定が必要であった。<br>◎発表の仕方を選択できる場を設けるなど、一人一人が主体的に意見を交流できる授業づくりを行う。 |

# 東三鷹学園三鷹市立北野小学校　令和8年度 【体育】科　授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|---|---|---|---|
| 第1学年 | ○ACPを準備運動で取り入れることで、運動遊びを充実させることができた。<br>○場や用具の安全に気を付け、きまりを守って運動することができた。<br>○基本的な動きを使って遊び方を工夫したり、考えたことを友達に伝えたりすることができた。<br>●友達同士で助け合ったり、良いところを伝え合うことができなかった。<br>●苦手な動きやできない動きに対し、粘り強く取り組むことができない児童がいた。 | ○体育は好きで楽しみにしている児童が多い。<br>○友達と協力して片付けや準備をすすんで取り組む児童がいる。<br>●友達の上手なところに気付き、認められる児童もいるが、自己中心的な発言の児童もいる。<br>●一斉指示でルールを理解できない児童や、理解できているが守れない児童もいる。<br>●どうすれば上手にできるようになるのかを考えたり、上手な友達の動きを真似ようとしたりする児童はまだ少ない。<br>●安全に活動するためにはどうしたら良いのかを考えずに活動する児童が一定数いる。 | ○体を動かすことや友達と一緒に取り組む楽しさを感じられるような内容、言葉掛けを精査した授業を組み立てる。<br>○手本となる動き、言葉掛けを積極的に価値付け、自信をつけさせていくとともに、正しい動き、良い言葉掛けについて共通理解を図る。<br>○学習用タブレット端末を活用し、自分の姿を客観的に見たり、手本動画を見たりできるようにする。<br>○ルールは分かりやすく伝える。守らない児童にはきちんと指導を繰り返す。 |
| 第2学年 | ○運動の楽しさや健康の意義などに気付かせ、安全に運動し、運動を楽しむことができた。<br>○学習を通して、自分の運動についての課題を見付けて、その解決に向けて試行錯誤しながら運動に取り組み、よりよく解決することができた。<br>○ゲームのルールや作戦について他者と話し合う時間を設けることで、考えを広げたり深めたりできる児童が増えた。<br>●ゲームにおいて、ルールを守ったり勝ち負けを受け入れたりすることが難しい児童が一定数いた。 | ○運動遊びを通し、体を動かすことの楽しさを感じている児童が多い。友達と協力してゲームを楽しむ姿が見られる。<br>○運動遊びを繰り返し行う中で、基礎となる体の動きが身に付いてきた。<br>●できない動きや運動遊びに粘り強く取り組もうとする姿勢は見られるが、課題解決に向けて工夫することができない。<br>●規則を理解するのに時間が掛かったり、勝敗を受け入れられなかったりする児童が一定数いる。 | ○準備運動に運動遊びを取り入れて、多様な動きを経験したり、主運動につながる動きを楽しく経験したりできるようにする。<br>○遊びのように楽しめる活動を取り入れ、運動の楽しさや健康の意義などに気付かせ、運動を安全に楽しめるようにする。<br>◎ゲームのルールの工夫や作戦について、児童が他者との話し合いをする時間を確保し、自分の考えを広げたり深められたりできるようにする。<br>○できるようになったことや友達の良かったところを伝え合う機会をつくり、学習したことや身に付けたことを振り返ることができるようにする。<br>○ルールが分かるよう、見本となるゲームを実際に見せて規則の理解を促す。また、勝敗を受け入れることができるよう、繰り返し指導する。 |
| 第3学年 | ○学びのサイクルを意識させ、児童同士が学び合ったことで、技能も向上し意欲的に学習に取り組むことができた。<br>○振り返りで毎時間どのような内容を学んだかを書かせたことにより、学びを実感させることができた。<br>○どの領域でも運動遊びから授業を展開していくことで、低学年との接続をスムーズに行うことができた。<br>●ICTの活用については、扱うときに時間がかかってしまい、あまり活用することができなかった。<br>●得点に目線が行きがちなため、自分たちのプレーの内容にあまり視点を当てられなかった。 | ○体を動かすことに楽しさを感じ、運動にすすんで取り組もうとする児童が多い。<br>○粘り強く運動に取り組み、技能を高めようとする児童が多い。<br>○友達と協力して、互いに高め合って取り組もうとする児童が多い。<br>●自己の課題を見付けても、その課題解決のための見通しをもてる児童は少ない。<br>●運動のルールにや勝敗に対して、受け入れられない児童が一部いる。 | ◎個々の取り組みを基盤としつつも、ペアやグループでの学習形態を積極的に取り入れ、互いに自身の考えを伝え合う時間を確保する。<br>○児童や教師の模範から見て学ぶだけでなく、学習用タブレット端末の活用で、自ら学びたい課題を選択して学べる環境をつくる。<br>○導入で運動遊びの内容から入ったり、スモールステップでの手だてを考えたりし、運動に消極的な児童も前向きに学習に取り組むことができるようにする。<br>○教師から、考えを引き出す発問をすることで児童が思考を働かせながら運動に取り組むことができるようにする。 |
| 第4学年 | ○学習カードの工夫や振り返りの時間を確保したことで、自分の課題や上達した点を整理して、次時の学習につなげていこうとする姿が見られた。<br>○スモールステップで多様な場を用意することで、運動が苦手な児童も意欲的に挑戦して、達成感を味わうことができた。<br>●ICTの活用については、自分の課題を明確にしたり、次の動きにつなげたりするための活用方法を児童と丁寧に確認する必要がある。<br>●振り返りが感想に留まることも多く、リード文を活用するなど記述方法に工夫が必要になる。 | ○運動に好意的な児童が勿論、運動に苦手意識がある児童も、スモールステップで多様な場の設定を行うことにより、楽しんで体を動かすことができた。<br>○マット運動や小型ハードル走などでは、ICTを効果的に用いて、手本の動きを確認したり、自身の運動の姿を見たりして、課題を解決しようとしたりする姿が増えた。<br>●振り返りに自身の成果や課題を具体的に書く児童が少ない。<br>●作戦を考えても、チーム全体声を掛けて共有することが苦手な児童が多い。 | ◎学習で考えたことや身に付いたことを伝え合う時間を必ずとる。視点を明確にして学習を振り返り、次時への意欲を高められるようにする<br>○ゲーム領域では、作戦タイムを必ず設けて、自分やチームの課題に合った作戦を考えさせたり、選ばせたりできるようにする。<br>○学習用タブレット端末をさらに活用して、課題解決の意識をもって自身の運動を客観的に視聴し、課題を見いだしたり、目標となる動きができているかを確認したりできるようにする。 |
| 第5学年 | ○話し合いの視点を明確にしたことで、チームで作戦を考えながら主体的に活動する姿が見られた。<br>○授業の始めにめあてを明確に示したことで、児童が見通しをもち、課題を意識して学習に取り組むことができた。<br>○器械運動や陸上運動では、技能のポイントを共有することで、友達と助言し合いながら技能の向上を図ることができた。<br>●児童が自ら課題を見付けたり、課題に応じた学習方法を選択したりする場面をさらに充実させる必要がある。 | ○運動が好きで、体を動かすことを楽しむ児童が多い。<br>○きまりや安全に気を付け、友達と協力しながら学習を進めることができる児童が多い。<br>●自分やチームの課題を分析し、それに合った作戦や練習方法を考えることが難しい児童がいる。<br>●苦手な運動では、自信をもって挑戦できない児童や、粘り強く取り組めない児童が見られる。<br>●学習を振り返り、自分の成長や課題を具体的に表現することに個人差がある。 | ○話し合いの目的や視点を明確にし、全員が自分の考えを伝えられる学習活動を設定する。<br>○授業始めにめあてを共有し、終末では振り返りを充実させることで、自分の学びを次時につなげられるようにする。<br>○運動のポイントを明確に示し、ペアやグループで助言し合う活動を取り入れ、課題解決につなげる。<br>○学習用タブレット端末を活用し、自分や友達の動きを撮影・比較することで、課題を見付け、改善方法を考えられるようにする。<br>○個に応じた課題や練習の場を工夫し、すべての児童が成功体験を積み重ねながら、意欲的に学習へ取り組めるよう支援する。 |
| 第6学年 | ○めあてを明確に示し、毎時間確認したことで、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組む姿が増えた。<br>○スモールステップや学習カードを活用したことで、自分の課題を意識しながら技能の向上を図ることができた。<br>○対話的な学習を取り入れたことで、互いに学び合いながら運動技能を高めることができた。<br>●振り返りの時間が十分確保できず、自分の学びや成長を深く見つめる活動に課題が残った。 | ○運動に意欲的に取り組み、友達と協力しながら活動する児童が多い。<br>○友達と助言し合ったり、課題を共有したりしながら学習を進めることができる児童が多い。<br>●自分に合ったためあてを設定したり、課題に応じた練習方法を選択したりすることが難しい児童がいる。<br>●技能差や苦手意識から、自信をもって活動に参加できない児童が見られる。<br>●振り返りを次時の学習に生かす力に個人差がある。 | ○スモールステップによる課題設定を行い、一人ひとりが「できた」「わかった」を実感できる授業を展開する。<br>○学習用タブレット端末を活用して動画を撮影・視聴し、自分や友達の動きを比較しながら課題解決につなげる。<br>○ペアやグループで伝え合う活動を充実させ、根拠をもって助言したり、自分の考えを表現したりする場を設定する。<br>○個に応じた課題や場を設定し、運動が苦手な児童も成功体験を積み重ねられるよう支援する。<br>○振り返りでは「できたこと・課題・次に取り組むこと」を明確にし、自己調整しながら学習を進められるようにする。 |